

令和6年度 学校評価結果（北海道紋別養護学校ひまわり学園分校）

1 教職員評価

(1) 実施日

令和6年11月1日～令和6年11月15日

(2) 対象者

教職員 34名（教員31名、行政3名）

(3) 結果

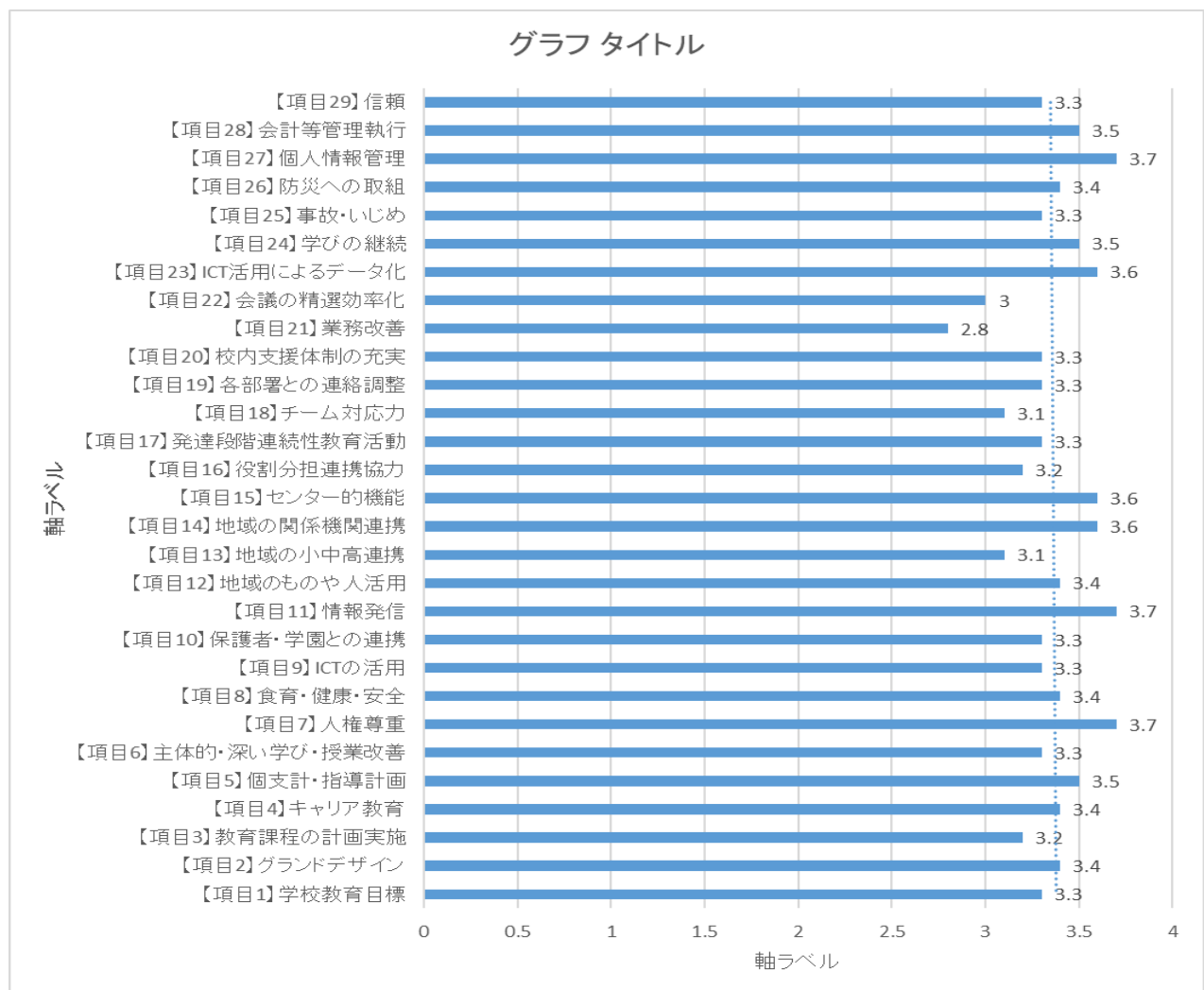
ア 教職員（回収率 100% 平均評価点 3.35 R5(3.31)）

(イ) 評価点は次のとおりとした。

- ・評価4（よくできた）～4点
- ・評価3（できた）～3点
- ・評価2（あまりできていない）～2点
- ・評価1（できていない）～1点

(イ) 図1は29の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図1 平均評価点（教職員）】



イ 学校経営【平均評価点：3.34】R5 3.31

評価項目	改善案及び次年度に向けて 全体平均 3.35 位以下	推進担当
○学校教育目標の具現化 ○グランドデザイン	【学校教育目標の具現化】 ・学校教育目標の具現化、育てたい資質・能力を育むためには、どのような指導が適切なのかを各学部・分掌等で検討し、次年度の運営計画に記載し反映することが必要。	・管理職 ・全教職員 ・各学部

ウ 社会とのつながり【平均評価点：3.38】R5 3.21

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.35 位以下	推進担当
【項目 3】 教育課程の計画実施 【項目 4】 キャリア教育 【項目 5】 個支計・指導計画 【項目 6】 主体的・深い学び・授業改善 【項目 7】 人権尊重 【項目 8】 食育・健康・安全 【項目 9】 ICT の活用	【教育課程の計画・実施】 ・教科横断的な指導における資質・能力(言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力)を通して、児童生徒の生活及び将来に関連付けた教育課程について、教育課程の整理及び各学部のつながりを意識した学習内容の整理と単元・題材の意味付けへの取組を徹底する。 ・教科部会への取組を充実させ、小・中・高のつながりのある生活に即した学習活動を展開する。	・管理職 ・全教職員
	【主体的・深い学び・授業改善】 ・研究テーマとの関連を図ることや各学部等・縦割りグループ等のチームとして「主体的・対話的・深い学び」を通じた授業改善への取り組みを実施する。外部講師による研修会の実施、定期的な校内研修(教育課程や ICT 活用)、特セン研修支援、授業を協議する場(校内研究、初任者授業研)の設定等をとおして、教職員の専門性向上への取組を継続する。また、教職員一人一人のキャリアに応じた積極的な研修参加や、学校課題や教職員のニーズに合わせた研修の設定が必要である。	

	【ICTの活用】 ・ICTの機能を活用した学習活動をさらに取り入れることが必要。そのためには、各学部の情報共有や他の学校でのICTの事例等研修の場や授業紹介等校内研修の場を設けていく。	
--	--	--

エ 保護者・地域とのつながり【平均評価点：3.45】R5:3.38

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.35 位以下	推進担当
【項目 10】 保護者・学園との連携 【項目 11】 情報発信 【項目 12】 地域のものや人活用 【項目 13】 地域の小中高連携 【項目 14】 地域の関係機関連携 【項目 15】 センターの機能	【地域の小中高連携】 各学部において居住地校交流や交流学习の頻度や回数が学部・学年が上がるごとに少なくなっている。新年度早々に各学部において、「ねらい」や「目的」を明確にし、確認して行く必要がある。	・管理職 ・総務部 ・全教職員

オ 組織間のつながり【平均評価点：3.20】R5:3.30 -0.1 ポイント

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.35 位以下	推進担当
【項目 16】 役割分担連携協力 【項目 17】 発達段階連続性教育活動 【項目 18】 チーム対応力 【項目 19】 各部署との連絡調整 【項目 20】 校内支援体制の充実 【項目 21】 業務改善 【項目 22】 会議の精選効率化 【項目 23】 ICT 活用によるデータ化	【役割分担連携協力】 各学部や各分掌間の情報共有し、役割分担や連携・協力体制を充実させていく。そのためには、学部連絡会の機能の充実や運営委員会の機能拡充等の検討を図り連携協力を図っていく。	・全教職員 ・各分掌 ・管理職
	【チーム対応力】 ・チーム(各学部・各分掌)として「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図る。 ・初任段階研修等における、ミドルリーダーへの分担や効果的な研修の在り方を検討し、初任段階層及びミドルリーダーの資質・向上を図っていく。	・運営委員会 ・管理職 ・全教職員 ・各分掌

	【各部署との連絡調整】 学部連絡会を軸として、各学部・分掌等の課題の集約や整理等及び検討を行い、方向性を提示し、校内の効果的な連絡調整の役割を果たす。	学部連絡会 運営委員会
	【校内支援体制の充実】 学校運営協議会の教職員の運営参画の実施や学校、地域、関係機関との実効性のある連携が図られるよう校内支援委員会の活用を図る。	・各分掌 ・各委員会
	【業務改善】 コアチームの運用や業務改善アンケート等の取組を基本とし、業務の精選、業務の平準化、適切な分担、初任者と経験者がともに学び合えるメンター研修、定時退勤の徹底などの具体策の実施について、検討の場を設けていく。 会議等については、案件に合わせた会議終始時刻を設定する。（退勤時刻を過ぎて会議を行わない）職員会議では、協議が必要なものを協議事項、協議が必要のないものを連絡事項、その他書面確認のものを紙面報告事項とすることを校内周知し徹底していく。 業務改善アンケート等をもとに、業務の精選、業務の平準化、適切な分担、休憩時間の意識化初任者と経験者がともに学び合えるメンター研修、定時退勤の徹底などの具体策の実施について、検討の場を設けていく。	・全教職員 ・管理職 ・各学部 ・各分掌
	【会議等の精選効率化】 ・会議資料の事前配布（データ等の配布）を心掛ける。 ・会議時間の目安（45分程度）をもとに会議を行う。 ・会議時間が一定時間必要と予想される等、案件に合わせた会議開始時刻を設定する。（退勤時刻を過ぎて会議を行わないような工夫をする。） ・職員会議では、協議が必要なものを協議事項、協議が必要のないものを連絡事項、その他書面確認のものを紙面報告事項とすることを校内周知し徹底していく。	・全教職員 ・管理職 ・各学部 ・各分掌

カ 安心・安全な学校【平均評価点：3.44】R5:3.39

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.35 位以下	推進担当
【項目 24】 学びの継続 【項目 25】 事故・いじめ	【事故・いじめ】 ・「ヒヤリハット」「事故報告」の意識向上に向け、	・各分掌 ・各学部

【項目 26】 防災への取組 【項目 27】 個人情報管理 【項目 28】 会計等管理執行 【項目 29】 信頼	再度、職員会議や全体研修等の場を通して確認し、各学部・分掌等内で必ず情報共有し、全体周知し、再発防止に努める。	
	【信頼】 ・教職員の規範意識やコンプライアンスへの取組について、教職員一人一人による率先垂範の姿勢の徹底(挨拶・服装・言葉遣い・整理整頓等・携帯電話の使用禁止)や法令及び服務規律の理解啓発及び実践の取組。及び不祥事防止に向けた取組を徹底することが必要。 ・呼名「～さん」の徹底や言語環境の整備、重点教育目標「主体的・協働的な教育活動の推進」の継続。人権基盤を意識した教育の推進に向けて、児童生徒理解（発達段階や生活年齢）に基づく学習内容、児童生徒一人一人が尊重される学習環境や教師の関わりとなっているかを考えることが必要である。 ・校内及び担当教室の整理整頓等を行い、定期的な確認を行い教室環境や環境衛生に努める。	・ 管理職 ・ 全教職員

2 保護者評価

(1) 実施日

令和6年11月1日～令和6年11月15日

(2) 対象者

18名（通学生保護者 10名、 ひまわり学園職員 8名）

(3) 結果

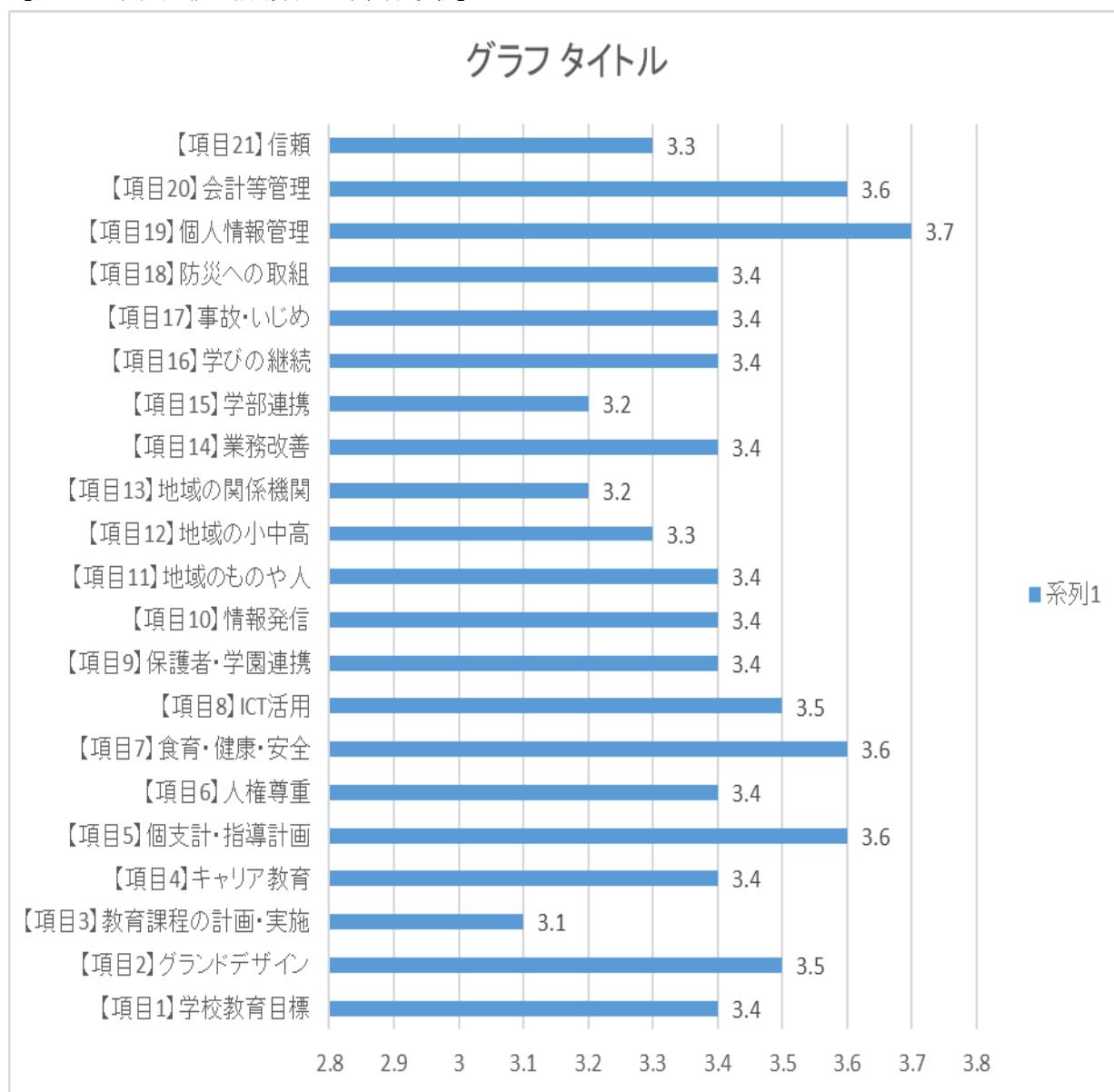
ア 回収（15名）回収率 83% 平均評価点 3.43）

（ア）評価点は次のとおりとした。

- ・評価4（よくできた）～4点
- ・評価3（できた）～3点
- ・評価2（あまりできていない）～2点
- ・評価1（できていない）～1点

（イ）図2は21の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図2 学校評価（保護者・学園職員）】



イ 各項目の平均評価点、分析及び次年度に向けて

評価項目	平均評価点
学校経営	3.47 (R5:3.30)
社会とのつながり	3.46 (R5:3.26)
保護者・地域とのつながり	3.39 (R5:3.34)
組織間のつながり	3.34 (R5:3.05)
安心・安全な学校	3.47 (R5:3.38)

【分析及び次年度に向けて】

- ・「よくできた」「できた」の割合が、全 21 項目全てにおいて 93%以上と高い評価をいただいた。21 項目中、9 項目が平均評価点の 3.43 以上の評価をいただいた。グランドデザイン、キャリア教育、個別の指導計画・個別の教育支援計画、食育・健康・安全、I C T活用、情報発信、地域資源の活用、事故・いじめ等・個人情報管理、会計等管理への取り組みについて一定の評価をいただいた。
- ・昨年度の最上位評価点は、「I C T活用」が 3.70 となっていた。今年度の最上位評価点は、「個人情報の管理」I C Tの効果的な活用」が、3.70 となっている。続いて「食育・健康・安全」「個別の指導計画・個別の教育支援計画」が、3.60 となっている。今年度いただいた結果は、様々な教育活動について、理解や協力をいただきながら連携が図られてきたことによる評価ではないかと推測される。
- ・平均評価点以下の項目は、21 項目中 5 項目であった。社会とのつながりの 3 項目（「教育課程の実施・計画」）、保護者・地域とのつながりの 2 項目（「地域の小・中・高との交流」「地域の関係機関との連携」）、組織間のつながりの 1 項目（「小・中・高の連携」）、安心・安全な学校の 1 項目（「信頼」）となっている。
- ・「教育課程の実施・計画」
児童生徒の実際の生活や将来の生活と関連した学習活動に向けて、学んだことを生活や社会につなげることができるよう、社会的自立に向けて身につけさせたい力を明確にし、学校全体で、継続的に実践を進められる体制をつくっていく。
- ・「地域の小・中・高との交流等」
交流及び共同学習の推進については、安国地区にとどまらず遠軽を地域として考え教育活動を広げ、地域資源を活用した学習の充実を図る。併せて、これらの学習活動の様子を保護者や関係機関、地域への発信を積極的に行う。
- ・「地域の関係機関との連携」
学校運営協議会の活用を図るとともに、地域との連携推進を図る校内体制の整備や生活文化体験活動、自然体験活動、社会体験活動の体験活動や現場実習等を実施していくための各教科等の特質に応じた教育課程の編成、さらに学校・家庭・地域が連携して情報提供を行い推進していく。
- ・「小・中・高の連携」
小・中・高の各学部が連携し、児童生徒の発達段階に合わせた連続性のある指導については、各学部の児童生徒・保護者・ひまわり学園のニーズに応じた情報共有と共通理解を図り、教育課

程の充実に取り組む。

- ・「信頼」
- ・呼名「～さん」の各学部内の徹底や言語環境の整備、人権基盤を意識した教育の推進に向けて、児童生徒理解（発達段階や生活年齢）に基づく学習内容、児童生徒一人一人が尊重される学習環境や教師の関わりとなっているかを考えることが必要である。

教育公務員としての自覚と責任をもち、教職員の意識向上に向けた研修を継続し、服務規律の保持とともに一般的な接遇のマナーへの理解を深めていく。また、子ども一人一人の良さや可能性を理解し、教職員相互に情報を共有し校内体制を整える。

- ・保護者、ひまわり学園との信頼関係の構築し、適切な支援や配慮による児童生徒への指導内容や指導方法についての共通理解を図る。